

令和3年度 学カスタンダード指導計画・報告書【様式1】

教科：(理科) 科目：(物理基礎) 対象：(第2学年 1組・2組・3組)

科目担当者：小河原

教科・科目の 指導目標	学カスタンダードに基づき、物理的な知識を身につけさせるとともに、身近にある自然現象について興味・関心を持たせる。 系統的な知識のみならず、自然現象から物理法則を予測し、自ら仮説を立て、数学的に証明していくことで物理的解釈を身につけさせる。 物理的解釈を基に論理的思考を展開し、判断力・思考力を養う。また、実験を通して、考察力・表現力を養う。
----------------	--

	高校入試等の分析結果・前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	基礎的・基本的知識を問う問題は正答する者が比較的多い。 複数領域に渡る事項の知識を総合的に判断して答えるような応用問題は正答できない。 基礎的・基本的事項であっても論理的な説明を要求したり、計算を要する問題では、正答率が非常に低い。	1. 年間指導計画の工夫 学習内容について、物理のみでなく、他教科との横断的な学習順序を検討する。 2. 授業内容の工夫 ① 板書内容を精査し、適所で図やグラフ等を用いて説明を行う。また、演示実験を行い生徒の興味・関心を高める。 ② 計算問題はプリントを作成し、プリント内での問題の難易度を段階的にすることで、論理的に考える能力を養う。 ③ 実験を行うことで、物理現象を多面的・総合的に考える能力を身につける。 3. 問題集の取り扱い 主に授業後の利用を促し、授業内容の定着を図る。記入点検を細かく行うことで、生徒の問題集使用を促す。	教科会等において、下記の指導方針を確認 1. 通年の授業計画を基にした授業の進捗状況 2. 授業の進捗状況・生徒の理解レベルを基にした夏休み等の課題及び講習 3. 定期考査を基にした学力不振者への課題及び個別指導の強化

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			